岩手日報　2013年（平成25年）12月7日（土曜日）

科学の不思議に興味津々

東京工大OBら 杜陵小（盛岡）で授業

ペットボトルを使った実験を通して、浮力について理解を深める児童

盛岡市肴町の杜陵小（小野寺正彦校長、児童230人）は6日、東京工大OBらで構成する「蔵前理科教室不思議ふしぎ（くらりか）」のメンバー4人を講師に招き、特別授業を行った。児童は楽しみながら、科学への理解を深めた。

授業を受けた5年生38人は、「アルキメデスの原理」を応用し、ペットボトルを使った浮力の実験に興味津々。物が水に浮かんだり、沈んだりする理由を実験から学んだ。

三上あおいさんは「これまで理科が苦手だったけれど、すごく好きになった」、小保内健太君は「浮力の仕組みを実際に自分の目で確かめると楽しい」と充実した表情だった。

理科好きの子どもを増やそうと、全国各地で出前授業を展開するくらりかの額持克実さん（67）＝神奈川県大和市＝は「さまざまな現象に疑問を抱き、調べてみるきっかけづくりになれば」と意義を語る。